

## 令和3年度 美田支部市民フォーラム 議事録(定稿)

1. 日時 令和3年12月20日(月)13:30~15:30

2. 会場 小山市役所6階会議室6

3. 参加者等

別紙出席者名簿のとおり

4. テーマ

「美田地区の活性化について」

5. スケジュール

1. 開 会

2. 市長あいさつ(5分)

3. 支部長あいさつ(5分)

4. 討論テーマ「美田地区の活性化について」

①学校との連携・協働による地域の活性化について

・豊田南北小学校跡地の利活用について(5分)

・意見交換(25分)

②安全で暮らしやすいまちづくりについて

・おーバスについて(5分)

・意見交換(25分)

～休憩～(10分)

③河川周辺地域の活性化について

・巴波川河川敷浚渫後の残土処理・巴波川右岸堤防上の整備について(5分)

・意見交換(25分)

5. 閉 会

6. 発言

○篠原シティブロモーション課長

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから令和3年度美田支部市民フォーラムを開会いたします。本日の司会を務めます。シティブロモーション課長の篠原です。どうぞよろしくお願いたします。本日の美田支部市民フォーラムは支部単位の市民フォーラムとして、本年度初めて開催するものです。参加者の皆様には至らぬ点もありご迷惑おかけするかもしれませんが、何卒進行にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。初めに、浅野正富小山市長よりご挨拶申し上げます。市長よろしくお願いいたします。

○浅野市長

皆様改めましてこんにちは。本日は大変お忙しい中、美田支部市民フォーラムにご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、各地区の自治会長の皆様には、日ごろから市政の円滑な運営のためにご協力賜り、心より御礼申し上げます。

私は、昨年 7 月末に市長に就任した後、この徹底した市民との対応と連携を市政の運営方針の一つに掲げております。対話と連携をしていくために、市民フォーラムを開催しようという

ことで市内全域を対象とした市民フォーラムと、自治会連合会、各支部単位とした地域版の市民フォーラムと、二通り行いたいということで、市内全域を対象とした市民フォーラムは今年の3月、令和2年度中でしたけれども3月に最初の市民フォーラムを行い、令和3年度には9月に、コロナ禍中だったため、オンライン方式で行いまして、昨日令和3年度2回目の市民フォーラムを7階、議会委員会室で行いました。市民フォーラム、最初にやったときは参加者から意見を述べていただくだけで終わってしまったような感じでしたが、2回目3回目と重ねていくうちに意見交換ができるようになりまして、昨日はかなりいろいろな話題に触れて、和やかな雰囲気の中で意見交換ができたという、形になってまいりました。

地域版につきましては各自治会連合会の各支部に、ご希望があればということで、お声をかけたのですが、今年度につきましては、美田支部が唯一希望されたということで、今日開催となりました。来年度は他の支部でも市民フォーラム行っていただけることになると思うのですが、初めての地域版のフォーラムとして、これがモデルになるような充実した市民フォーラムにできればと思っております。やはり各地区を良くしていくためには、行政と市民、住民の皆様が、率直に意見交換ができるということが基盤になってまいりますので、こういうような市民フォーラムを通して、またそれ以外の様々な場所、機会を使って、各地区の自治会の方や住民の皆様と行政とが意思疎通を深めていくような形で、これからも取り組んでまいりたいと思っておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。実りある意見交換にしていきたいと思っておりますので、最後まで2時間ほどですが、どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。続きまして小山市自治会連絡協議会美田支部、渡辺一男支部長からご挨拶をいただきます。渡辺支部長よろしくお願いいたします。

#### ○渡辺支部長

皆さんあらためてこんにちは。今日は美田支部市民フォーラムということで、浅野市長におかれましては、多くの支部がある中で、美田支部を選定していただき、改めて感謝と御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

美田支部は、ご案内のように、昭和30年に、豊田・中・穂積の三か村が合併し、美田村、そして、昭和38年に、小山市に合併し、さらに昭和41年に小山市自治会連絡協議会が設立され、美田支部として設立されたわけでございます。それ以来今日まで、皆様がた自治会長のご支援をいただき、支部の安全安心な生活のために行動してきたところでございます。改めてお礼を申し上げたいと思います。

美田支部は、ご案内のように思川の西部地域に位置し、面積的には小山市の4分の1を占める、大きな地域でございますが、人口的には10%を満たない、これから過疎化が心配される中の地域であります。

そのような中であって、将来子供たち、あるいは孫たちが本当に美田地区に住んでよかった、これからも住みたいというような環境を作らなければなりません。

そのために現在の安全安心な地域に加えまして、地域の活性化がどうしても喫緊の課題ではなかろうかと思っております。そのような中において、美田支部のそれぞれの自治会長さんと協議

させていただいた結果、大きなタイトルとして、美田地区の活性化ということで、タイトルを決めさせていただきました。

そして、それぞれ豊田・中・穂積の地域において、細部にわたる、問題がございます。例えば、学校問題、交通安全問題、あるいは河川の問題等々、数あるわけがございます。そのような中において、それぞれの皆さんのご意見を拝聴し、それが、浅野市長がおっしゃる、市民一人一人の理解をいただきたい。そういった方向で、今回このフォーラムを開催していただいたことを念頭に置いていただきまして、どうぞ皆さん、忌憚のないご意見をいただき、本日のフォーラムが、意義あるフォーラムとなることを心からご祈念ご期待申し上げ、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。続きまして副支部長をご紹介します。副支部長高橋武雄様です。同じく副支部長小島俊夫様です。

続いて、市側の出席者を紹介いたします。改めまして浅野正富小山市長、雲井副市長、坪野谷統勇総合政策部長、小林功総務部長、小林典子保健福祉部長、古川幸一建設水道部長、須郷幹雄都市整備部長、阿久津宣明教育部長、猪瀬治雄消防長、町田哲夫危機管理監です。

また、自治会を所管されております、古川都市民生活部長、江藤和枝豊田出張所長、吉森映子中出張所長、大塚照子穂積出張所長です。

それでは本日のご予定をご案内いたします。本日は討論テーマ美田地区の活性化についてということで、①学校との連携協働による地域の活性化について②安全で暮らしやすいまちづくりについて③河川周辺地域の活性化についてということで、次第がございますように三つごとに意見交換をまいりますので、よろしくお願いいたします。

それぞれ、最初に担当部長の方からここにございますように約5分ご説明の方をしていただきましてテーマ1つごとに支部長又は副支部長を進行役、私の方が進行補左をさせていただきますながら、参加者の皆様からテーマに関するご意見をいただき、意見交換して参りますのでよろしくお願いいたします。

ご発言の際は、挙手の上、自治会名とお名前の方お願いいたします。マイクを事務局の方から持ちいたしますので少しお待ちください。また多くの皆様に御発言いただくため発言は2分以内ということでご協力をお願いいたします。残り1分、残り30秒、それと時間の際に、ベルを目安として鳴らさせていただきますのでご協力よろしくお願いいたします。それでは早速、①学校との連携協働による地域の活性化につきまして渡辺支部長に進行をお願いいたします。少し準備いたしますので少しお待ちください。

#### ○渡辺支部長

それでは、進行を務めさせていただきます。改めて支部長の渡辺でございます。どうぞよろしくお願いいたします。限られた時間内でありますので、多くの意見交換により有意義な意見交換となりますよう、進行にご協力をお願いします。

まず、先ほど司会者よりお話がございましたように、①の学校との連携協働による地域の活性化、豊田南北小学校跡地の利活用について阿久津教育部長から説明をお願いいたします。

#### ○阿久津教育部長

教育部長の阿久津でございます。①学校との連携協働による地域の活性化について、私の方からご説明させていただきます。

お手元の資料に基づき説明させていただきます。また、あわせてこちらのカラー刷りで二つ折りになっております資料、両方お手元にご用意ください。まず資料の方からご説明いたします。豊田地区では豊田南小学校と豊田北小学校を統合し、令和4年4月に豊田中と小中一貫校となります、豊田小学校が開校いたします。

黒丸の一つ目でございます。閉校する豊田南小豊田北小の利活用を通じた地域活性化について、平成30年1月に策定されました小山市公共施設マネジメント推進計画におきまして、閉校する豊田南小豊田北小等の学校施設の廃止民間への売却が基本的な方針とされております。現在地元の福祉団体などからこれらの施設利用の希望の声が寄せられております。閉校後の2校の跡地に関することにつきましては、市では今後、民間への貸し付けを含め市と地域の双方に有益となるような方針の決定に向けまして、庁内で具体的な検討を開始いたします。必要に応じて、地域の皆様や団体にご意見を伺ってまいりたいと思いますのでその際はどうぞよろしくお願いいたします。

次に、平成28年度閉校いたしました、梁小・延島小の現況、参考でございますけれども、梁小におきましては、現在小山ベースボールビレッジということでグラウンド・旧屋内運動場でございますけれども、栃木ゴールデンブレースの練習拠点として活用されております。

次の延島小学校でございますけれども、こちらは土地建物を民間に貸し出してありまして、「アグリノ森」として活用していただいて、黒タマネギなど地元の農産物を加工販売するとともに、地元から雇用も生んでおります。

次に黒丸の二つ目でございます。子ども達の安全な登下校についてです。豊田小においては、小学校2校の統合によりまして通学区域が豊田地区全体となることに伴いまして、児童によってはこれまで以上に通学距離や通学時間が増加するものと見込まれております。このため市では主に遠距離通学となる児童の安全安心な通学を実現するためにスクールバスを運行することとしております。スクールバスの対象となります、区域ですとか、対象の児童、それから徒歩通学に係る通学路等については、自治会や保護者、学校運営協議会委員、校長など、地域の代表者からなります、小山市小中一貫校豊田中学区推進委員会を通しまして、保護者、育成会、学校中心に地域にご検討いただいております。なお通学路の必要となる安全対策や整備につきましては、推進委員会が地域の意見を集約し、市に対し、以下のような要望をいただいております。

交通指導員配置、押しボタン式信号や横断歩道の設置、グリーンベルトや路面標示の設置、などがございます。これら要望につきましては、内容を精査の上、市の関係各課、県警察とも連携し、計画的に対策を講じてまいります。

保護者や地域の皆様にも子ども達が安全のもとに通学ができますよう、立哨や見守り等の御協力をお願い申し上げます。

最後の黒丸でございます。特色ある学校のPRについてでございます。新設の豊田小学校につきましては、校舎の2階に木造を採用するほか、内装にも木をふんだんに活用した「木の学校」となります。豊田小と豊田中では学びや育ちを「つなぎ」、指導を「そろえ」、みんなが「つど

う」をキーワードとした小山市の小中一貫教育を実践いたします。豊田小学校を含め、豊田小中一貫校の概要につきましては、別紙のカラーの二つ折りのリーフレット、時間の都合で詳細をご説明できませんけれども、後でご覧ください。これを元に、今後、豊田小や豊田中のみならず豊田小中一貫校としての取り組みを積極的に推進してまいりたいと考えております。

なお、豊田小学校につきましては、来年の3月ですけれども、地元の皆様を対象とした内覧会を予定してございますのでその際は追ってご連絡いたします。私からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

#### ○渡辺支部長

ありがとうございました。それでは早速、意見交換させていただきます。なお、適宜浅野市長からご意見をいただき、市側から補足説明やご意見をいただきたいと思っております。本テーマは来春の小中一貫校豊田小学校の開校に向けて、小中の連携と地域・学校間の連携・協働を強化し、地域の活性化に繋がる子どもたちの成長を支える仕組み作りについて意見交換をしたいと考えます。なお、豊田地区に限らず、地域と学校の連携についてご意見など交換できればと思っております。発言を希望される方は挙手をお願いしたいと思います。はい、どうぞ。

#### 片野立木下自治会長

立木下自治会の片野です。豊田小中学校が一貫校になったというのは、いいタイミングであります。私は70年生きていますけど英会話ができません。社会人になって英会話できないとちょっと人生つままないなあと思いました。小中一貫校はいいタイミングでできたなと思いました。普通なら高校一年生からの英会話を、小山市は進めていきたいならいいなと思いました。中学校卒業するくらいには、英会話ができるくらいにしてもらいたいです。私は工場勤務で組立作業したんですけど、10年ぐらいたったら海外へ出張へ行けて言われました。サウジアラビアだったんですけど。最低半年か1年行ってくれと言われましたが、私は英会話出来ないので。それでも行けてなっていましたけど苦労しましたね。それから、5年たったら今度は工場を、海外で作るんで研修生を受け入れたらお前が、責任者になって教えろってなって、そういうことで英会話できないんですが、何とか小山市は英会話に力を入れて進めたらいいんじゃないかなと思うんです。このタイミングで、小中一貫校豊田小中を使ってもらうといいと思います。以上です。

#### ○渡辺支部長

ありがとうございました。片野さんどうも貴重な意見、大変ありがとうございます。これについて、どうでしょう教育部長。

#### ○阿久津教育部長

貴重なご意見本当にありがとうございます。ご意見いただきました通り、小山市では36校の小中義務教育学校があるんですけども、各校に、ALT・英語指導助手が1名ずつ派遣されておりますので身近に、英会話についても、英語の授業に限らず、普段の生活から英語に親んでもらっています。今おっしゃられた小学校卒業するまでには、英語が少しでも話せるような環境にありますので、これからも引き続き英語教育は推進してまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### ○渡辺支部長

ありがとうございます。浅野市長何かありますか。

○浅野市長

先ほど教育部長が説明した通り、全ての小中義務教育学校に ALT を派遣しているわけですが、その ALT が指導するときも小学校中学校の連携が、大事なんだろうと思います。そこでとにかく豊田の場合には、豊田中学区の小中一貫校ということで豊田小豊田中学校隣接してますので、そういう中で先生たちが移動しながらも、そういう形で両方指導できますし、ALT も、今度は一応小中別ですから二人いる形なんですかね。その ALT 自体が今度連携できるということになりますので、いわゆる他の小中義務教育学校に比べるとやはり小中一貫の効果っていうのは非常に大きいんじゃないかなと思っております。

○渡辺支部長

市長ありがとうございました。続いて。山口会長どうぞ。

○山口大内川自治会長

大内川自治会長山口です。大内川は北小のすぐ前の集落で北小周辺の道路整備も、うちの自治会から整備してもらってます。そういうこともあって、北小の跡地利用について発言したいと思います。まず思いとしては卒業生が多いとして、どういう形の利用をされてもですね、そこに学校があった、何らかの痕跡が残るような利用をしていただければと思います。跡地利用を考える上で、県道小山環状線が黒本橋渡って T 字路になってますけど、それを将来整備されるといいかなと。栃木とお互い結構広い道ができるんで、北小はすぐ県道に隣接するというか。道路を活用した農作物直売所とかですね、福祉施設の方で希望があるということになっており、農村地域ですので、いろいろと福祉の連携、農福連携の事業とかですね、そのことができるような農業地帯、おっしゃるように、田んぼが周りにある学校ですので、その辺の地域性を生かした利用をしていただければと思います。

○渡辺支部長

ありがとうございます。今大本の山口会長からの農福連携をはじめ学校の跡地利用という地域に密着したお話でございましたけれども、それについて執行部でどなたかありますか。阿久津部長お願いします。

○阿久津教育部長

只今のご意見、貴重なご意見ありがとうございました。冒頭にもご説明をさせていただいたところでございますけれども、来年、小山市の公共マネジメント計画がありまして、それに基づいて今後進めるわけでございますけれども、教育委員会の教育総務課にございます、現在は小中一貫政策推進係という係ですが、それを来年度から学校適正配置推進係と名称を変更する予定でございまして、その中で学校跡地利用推進プロジェクトを来年 4 月から組織しまして、廃校する際の課題などを出しまして、その課題解決策、検討とか利活用の研究推進をする体制を構築してまいります。豊田南小学校、北小学校両方の今後のあり方を検討してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

○渡辺支部長

ありがとうございます。それでは浅野市長いかがでしょうか。

○浅野市長

教育部長が最初に説明した通り、小山市には公共施設等マネジメント推進計画というのがあります。学校施設で閉校したのものについては民間への売却が基本だと方針が書いてあります。実際どういう形で使うのかとなったときに民間の方が、そこを購入して新たに再利用するという形もあれば、借りて使う、校舎もそのまま使うケースと二通りあるんだろうと思います。それで建物全部壊して、また新しい物を建てるってということになりますと、いろいろ開発の許可とか、難しい問題もありますので、現実的には民間の方が借りて校舎を基本的に使いながら利用することになってくるのかなと。そこで今、一部福祉施設の方からどうだろう、みたいなお話も出ていと聞いております。それ以外でも、先ほどご指摘になったように、道路関係で流通的なものとか利用しやすくなるというようなところで農作物の直売所とか、候補としてあるでしょうし、例えば梁小延島小の場合には、民間のエイジェックとかゴールデンブレイブスが使っているんですけども、北小についても、そのような形で民間の方が、何らかの形で利用できるような、そういうような形で公共施設の維持のためのコストについても、あわせて賃料収入を得たり管理に費用がかからなくなるということで、貢献してもらえればいいのかと思っております。ですから、こういうふうには北小が閉校になって、そういうような使い方ができるんだというようなことについても、いろんな業界の方に周知して何か提案を受けていくような、工夫も必要のかなと思っておりますので、また関係部署とも調整しながら教育委員会だけではございませんので、そういうような周知等についても力を入れてまいりたいと考えております。

○渡辺支部長

ありがとうございます。他にございますか。今、片野会長と山口会長からそれぞれ意見ございましたけれども、他にないですか。自治連副会長の小峰さん、何かないですか。

○小峰今里自治会長

指名いただいたもんですから、今里自治会長の小峰と申します。先ほどからテーマあがります跡地利用ですね、小学校の今、市の方針では、民間への売却ってというのが基本方針だということをお聞きしましたけれども、なんせ卒業生が結構地元いっぱい住んでおりますので、民間へ売却した場合に、ここに小学校があったとかっていうのが全く跡形もなくなってしまうというのもいかがなものかなと思っておりますので、できうれば、経過、こんな風に行きますよっていうか何かの方法で地域住民に連絡していただければありがたいかなと思っております。以上です。

○渡辺支部長

教育部長、何かありますか。

○阿久津教育部長

ご意見ありがとうございます。先ほど以来、申しあげご説明させていただいているように進めてまいりますので、節目節目に、地元の皆様にはご意見を報告する機会とか、そういった方針等が決まった時点で、ぜひお知らせをしてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

○渡辺支部長

ありがとうございます。浅野市長いかがでしょう。

### ○浅野市長

先ほどもお話しした通り、実際、例えばその土地建物を購入して、それで、その建物も全部壊して新たに何らかの施設等を建設するというのは、どちらかというやはり難しくなって、学校の跡地利用というのは梁小と延島小だけでなく、校舎を利用するというケースが多いんだらうと思います。そういう意味で、校舎が建物が残るということは、やはりそこが学校であったということがわかる形になりますし、また何らかの形でそういう例えば小学校の沿革とか、そういうようなものが敷地の一部に残るような形とか、考えながら、やはり地域にとっての大事な記憶というものをできるだけ存続させるような形というのを地域と相談しながら進めていければなと思っております。

### ○渡辺支部長

ありがとうございます。阿久津部長、延島小の参考事例としてお話しいただけますか。

### ○阿久津教育部長

延島小におきましてはですね、跡地利用を進めるに当たりまして、延島小跡地有効活用地元関係者協議会を設立して、そちらでもいろいろご意見を調整していたようでございますので、こちらの事例を参考に、豊田北小南小についてもそういった関係者の協議会を、作らせていただいて、ご意見なり頂戴してまいりたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

### ○渡辺支部長

ありがとうございます。ほかに、ありますか。例えばですね、③の中の特色ある学校のPR等という問題についても意見をいただければありがたいと思います。はい。片野会長お願いします。

### ○片野立木下自治会長

立木下自治会の片野ですけど、跡地利用かな他のどこかの市か忘れちゃったんだけど、跡地を、グラウンドをサッカーかチームに貸して、校舎を宿泊施設に使っている自治体がありましたね。そういうのはひとつは、地元じゃなくて他の市のほうからも来てもらって、そこで合宿してもらって、使ってもらってる。そういうのあるんじゃないかなと思います。以上です。

### ○渡辺支部長

ありがとうございます。今の片野会長のお話は、有効利用で小山市全体だけでわなくて、その建物をアピールすることによって各地から人を呼び込むというような感じですよ。はい。それについて執行部で何か知っている範囲で、例えば県北の廃校問題あるいは栃木市の廃校問題様々あると思うんですけど。そういうことで、執行部で何かお話ありますか。はいお願いいたします。

### ○篠原シティブロモーション課長

私、発言させていただいてよろしいでしょうか。私ちょうど延島小学校の貸し付けのとき、担当させていただいておりましたので、そのときの事例なんですけれども、県の北の方では塩谷町に、星降る学校熊ノ木というのがございます。木造の校舎を使ってるんですけれども、そこはNPOが運営してまして宿泊施設になってます。それと大田原の方では光のカフェといって1階をカフェにして、地域の方やいろんな方が集うような人気のお店になっていたりします。あとは那須町では、朝日小学校というのがありますが、それがやはり、地域の方ということ



で会社が全部借りて、地域のコミュニティのために、老人福祉施設のような形で使っているところもあります。先ほどサッカー場とお話したんですけど、茨城県の方で廃校をサッカー場グラウンドとして、J1 かJ2 のチームだったんですけども、借りているところがあります。学校はまとまった土地建物になりますので企業にとっては、魅力的な物件に映る場合もありますので、そういった活用が全国であります。以上です。

#### ○渡辺支部長

ありがとうございます。他にありますか。例えばね。③の特色ある学校のPRについて豊田小学校は、豊かな自然の中にある学校ということで、環境問題に詳しい高瀬会長どうですか。有効なPR活動。いかがですか。

#### ○高瀬黒本河原自治会長

黒本河原の高瀬です。本当に環境問題、非常にいいところですよ。それで、私は駐在所さんと必ず月 1 回は回るようにしてるんですけども。やっぱり具体的にやっぱり回って歩くと結構、利害者が入ったりすることもあったらしいです。そういう中でまず防犯の面、それともう一つはやっぱり環境で本当に田園地帯で何かやればいいかなと今、頭にちょっと用意してたんですけども。そういうことでもしそういうことで相談を受ければ、私も参加してなんとか環境問題についての話をやっていきたいとそんなふうに思ってます。それで話は少し変わるんですけども、②の子供たちの安全な登校っていうことがあるんですけど、だいぶ豊田中学校の正門は非常に狭い。それともう一つは、踏切があると。いうことでそこを何か、携帯をいじくりながら踏切を渡る人間もいるとか、なんかそんな話を聞くものでやっぱり登下校の環境をちょっともっとこうやっていただければな、そんなふうに思います。以上です。

#### ○渡辺支部長

ありがとうございます。時間も限られているので。建設水道部長。道路問題からと踏切問題、知っている限りでいかがでしょう。

#### ○古川建設水道部長

建設水道部長の古川でございます。よろしく申し上げます。中学校の正門確かに狭いんですけどもそこは県道ということで、県の方にも話をしてるんですがなかなか家が密集してるということでなかなか難しいです。それともう一つ踏切でございますが、本来ならば、学校ができると同時に、あそこに道路を作り、かつ、踏切も拡幅するというようなことをするとこだわりますが遅れまして大変申し訳ないです。踏切につきましては、踏切を拡幅するに当たっては、前後の道路が踏切と同じ位の幅員でないとだめだということで、今現在、道路整備を行っております。踏切については国の補助金をもらうためには、県から来る割合、割り当てが少ないものですから、今、行っているところを終了して我々担当としては令和 8 年以降になるかなと思っていたんですが、JRの方からもっと早く出来るよという話がありましたので、今現在協議をしているところです。また国からの補助金が、なんとかもらえないかということで進めているところがございます。いつというのははっきりと申し上げられないところなんです。数年後、令和 8 年まで行かないと思うんですが、早急に準備をして整備をしていきたいと考えております。以上でございます。

#### ○渡辺支部長

ありがとうございます。踏切については、過日、拡幅のお願い、小山市を通じましてJRにした経緯があります。今建設水道部長のお話ですと、非常に早いスピーディーな方向で進めていただけのような感触を得ました。大変ありがとうございます。時間なんで申し訳ございません。この問題はこれにて終了させていただきまして、最終的に3地区を総合して、浅野市長にまた、お話いただければありがたいと思います。美田地区の豊田地区については、これを持ちまして、次の地区に代わらせていただきます。ありがとうございます。

#### ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。続きまして②安全で暮らしやすいまち作りにつきまして小島副支部長に進行の方をお願いいたします。それでは準備いたしますので少しお待ちください。

#### ○小島副支部長

改めて進行、務めさせていただきます副支部長の小島です。どうぞよろしくお願ひしたいと思います。渡辺支部長より、弁がたたないものですから、聞きづらいと思うんですが、よろしくお願ひしたいと思います。限られた時間で多くの意見を有意義に意見交換となるよう進行していきますのでご協力をお願いしたいと思います。まず②の安全で暮らしやすいまちづくり「おーバスにつきまして」は都市整備部長から、ご説明をお願いしたいと思います。

#### ○須郷都市整備部長

都市整備部長須郷と申します。よろしくお願ひいたします。本日の討論テーマ安全で暮らしやすいまちづくりについての具体的な内容について、おーバスについてということでご説明させていただきます。お手元に路線図があるかなと思います。広げてもらうと地図がついていきますので、これも一緒に見ていただければと思います。おーバスの概要となりますが、市街地につきまして、路線バス14路線、郊外につきましてはデマンドバス5エリアで運行しております。そのうち美田地区につきまして路線バスにつきましては、左手の⑦で示します思川駅線というもの、その下の⑧で示します道の駅線が、小山駅を結んで運行しております。また、予約によりましてエリア外を運行するデマンドバス、こちらの豊田エリアと中穂積エリアということで地図中の紫で囲んだエリアになりますが、2エリア運行しております。また、デマンドバスでエリア外にお出かけの場合には、乗り継ぎ拠点ということで思川駅ですとか道の駅、見ていただくと乗り継ぎ拠点表示はあるかと思うんですが、そちらへデマンドバスでお越しいただきまして、路線バスに乗り継いでいただきまして、駅なり、いろんな利用していただくようなシステムとなっております。続きましておーバスの利用状況、簡単に説明させていただきたいんですが思川駅線が令和元年度、延べ年間利用者数1万9649人、約2万人ということだったんですが令和2年度1万7000人ぐらいまで落ちてます。前年度比で1割ぐらい減となっております。また、道の駅線につきましては、令和元年度1万6000人ぐらい乗っていただいたんですが、令和2年度につきましては、1万2000人ぐらいの利用ということでこちらも2割ぐらい、減となっております。またデマンドの方ですが豊田エリア、令和元年度1700人ぐらいが令和2年度が500人程度、7割ぐらい減っております。また、中穂積エリアにつきましては令和元年度800人ぐらい利用していただいたものは、令和2年度200人程度です。こちらもやはり7割ぐらい減となっているんですがコロナもありましたので、公共交通利用者離れが、進んで外出自粛ですとか、乗合を敬遠するですとかいろいろ理由はあるかと思うんですが、このよう

な状況となっております。我々の都合だけ申し上げますと、利用者の減少、そのまま収入減に繋がってしまうので少し厳しい状況になっております。続きまして、増便開設について、あまりいい話ができないんですが説明させていただきます。思川駅線と道の駅線のバスの増便ですね。今年度策定を予定しております地域公共交通計画で、市全体の交通をどうしていくか、現在検討しております。本市が目指します交通体系ですとか、政策展開を具体化して、優先順位ですとか、いつごろやるですとか運送規模どのぐらいにするか、その辺の再編計画現在検討させていただきます。その中で、位置づけて、検討していくこととなります。計画の中でどうしても優先順位決めて、一度にはできないので徐々に整備を進めていくと、考えております。具体的な話をさせていただきますと美田地区の公共交通につきましては思川駅線と道の駅線が1台の車両で、交互に運行しているので、便数が少なくなっております。街中を走っている路線は、通常1時間1本程度確保できるよう、運行しておりますがこちらにつきましては1台で、2路線ということでその半分ぐらいになってしまっていて、ご不便おかけしております。申し訳ございません。将来的には我々のビジョンといたしましては、思川駅線、道の駅線、それぞれ1台の車両で運行できるようにしていきたいと考えております。都市計画的な考え方をさせていただきますと、コンパクトプラスネットワークという話があるんですが、郊外と市街地を結ぶ交通ネットワークの構築は重要であると我々考えております。また田園環境都市ということで、現在小山市の目指す方向を考えますと、良好な環境保全ですとか、自家用車両を少しでも控えていただければと考えておましてそういう意味でも、こちら公共交通は重要と考えております。その他、最後になりますが、本年度の事業といたしましてこのおーバス自体の本来の事業ではないんですが、タクシーとバスを組み合わせると利便性の高い移動サービスができないかということで実証実験させていただいております。おーバスの便数、どうしても少ないですとか、時間が合わないですとか、エリアを超えて利用したいというご意見に対応するために、12月1日から、2月28日までの期間ですが、社会実験といたしまして、デマンドバス登録者、定期券noroca(ノロカ)所有者の方、それから免許自主返納されて無料乗車証をお持ちの方対象にしまして、タクシー料金を2000円までは半額補助するという社会実験を行っております。この社会実験の負担率、妥当だろうかということですか、利便性どうかとか需要があるかどうか、郊外部の移動手段の一つとして、タクシーとの相互利用が、有効な手段だろうかというようなことを検証させていただいております。こちらにつきましては両方アンケート調査等を予定しておりますので、ぜひこちらの実証実験参加していただければと思っております。皆様のおーバス利用が公共交通の充実に繋がってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。説明は以上となります。

#### ○小島副支部長

ありがとうございました。早速意見交換をさせていただきます。なお、適宜浅野市長からご意見をいただき、市側からの補足説明やご意見をいただきます。本テーマは高齢者の移動手段の利便性向上や子どもたちの通学時の安全確保といった地域内の交通に関する事、また災害時の対応に関する事など、昨今の状況を踏まえて地域住民の生活を守り、安全安心でより暮らしやすいまちづくりに向けた意見交換をしてみたいと思います。発言を希望される方は挙手をいたします。よろしくお願いいたします。どうぞ。

## ○野原間中自治会長

間中自治会の野原と申します。よろしく申し上げます。私の方は、安全で暮らしやすいまちづくりで3点ほど意見を述べさせていただきたいと思います。まず一つ目は、先ほどの豊田地区の子供たちの安全な登下校、これと、若干重複するところがあるかもしれないんですが、私の住んでる間中地区は穂積小学校まで約2キロございます。子どもたちはそこを歩いて行くんですが、できるだけ車の通りの少ない農道を歩いて現在行ってます。最近、その農道も舗装がされてまして、非常に車の通りもあるということで、他県ではありますけれども、子供の通学時にお酒を飲んでトラックがそこに突っ込んで子供たちが死傷した事例がございました。非常にあれを見てて私たちの地域と似てるなっていうふうに感じたものですから今回、その子供たちの安全を守るという意味から、どういうふうにしていったらいいのかその辺の話を聞かせていただきたいと思います。それともう1点は、道の駅思川から、思川西側ですね、まっすぐ南に抜けた萩島白鳥線にぶつかる農道なんですけど、これも非常に整備されて、舗装されています。そこをですね、乗用車あるいはトラックがひっきりなしに通ってます。5月の連休のときの田植え時期には特に道の駅のイベント等もありまして、県外ナンバーなんかの乗用車がそこを通ります。そういったときに農作業に対して、安全が保たれるのかというのを、疑問に思ったので、今回意見として出させていただきます。それとも、もう一点最後ですけれども、県道33号線の駅からずっと間中の橋、抜けてる道路なんですけど、この道路の両端の雑草ですね、今年度2回ぐらい5月と9月の中下旬ぐらいに草を刈っていただいたんですが、非常に背丈よりも高くなってしまって、道路を覆って車さえ見えない状況にありました。ちょうど9月頃は稲刈り時期もありまして、そこを横断する農機具があるわけですね。そういう時に事故が起きないように配慮してるわけなんですけども、そういうところも市だけではなくて、県の方がみえればお話をしたかったんですが、そういう状況にあるということを知っておいいただきたい。ということで今回の意見を述べさせていただきました。お願いいたします。

## ○小島副支部長

ありがとうございました。

## ○篠原シティプロモーション課長

通学路の安全につきまして、教育部長からひとこといただきます。

## ○阿久津教育部長

貴重なご意見ありがとうございます。私の方から教育委員会所管の通学路につきまして、通学路対策、安全対策につきまして、お答えを申し上げます。通学路につきましては、各学校において、地域の実情ですとか、交通状況等かんがみて、指定しているところがございます。安全確保につきましては、平成24年、小山市通学路交通安全プログラムというのを作りまして、それに基づき毎年各学校から、通学路の改善要望をいただいております。そのいただいた物を、教育委員会それから市の関係部署から警察署道路関係部署、さきほどと重複しますけれども、その関係機関と、小山市通学路安全推進会議を開催しております。今年につきましては、10月に開催したところがございます。さらに先ほどございますように、千葉県の八街市の事故を受けまして、さらに今回は、もう1回今月12月に、2回目の会合を開きまして、各学校から、安全要望のありました箇所についての検討を関係者と検討しているところでございます。ですか

ら、今後ですね、登下校時の児童生徒が安全確保を第一に、通学できますように、今後とも関係機関と協力して努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願います。

#### ○篠原シティプロモーション課長

それにつきまして浅野市長どうぞ。

#### ○浅野市長

千葉八街市で、お酒飲んで運転した方が、児童の列に突っ込んだ事故がございました。それで例えば、本来、ガードレールを設置しなきゃいけないような場所なのかどうなのかということでは、通常道路も結構広いところで、そんなにその往来がすごく多いというわけではない、場所で飲酒運転による事故と。道路を整備することで事故を防ぐべき場所なのかそれともそういう本当に基本的な交通安全というような飲酒運転をさせないような、そういう形で事故を防ぐのかということでは、全ての道路に、車が突っ込まないようにしてくれとご意見もあったりするんですけれども、そこら辺のところをやはりどちらが効果があるのかということでは、道路整備なのかそれとも交通マナーを高める方がいいのかということでは使い分けながら、交通安全を確保していくということが重要なのかなと思っております。もう一つ農道の交通事故に関しては、本当にその見通しがいいようなところでスピードを出しすぎて事故というのは、農道での事故の特徴なんです。特に本当になんでこんなところで両方車見通しいのに交差点で衝突事故起きちゃうんだらうというところで、事故が多くて非常に被害も大きいというケースがあり、農道での事故を防ぐということに関してはやはり根本的に対策を考えなきゃいけないということもあるのかなと思うんですけれども、本当に特に学校が近いところでは、やはりそういうその学校が近い児童生徒が通学に使ってるということをきちんとわかるような形で、特にドライバーに注意喚起をさせる、してもらうような手当てをしていく必要があるのかなと思っておりますので、特に今回豊田中・豊田小学校が開校する周辺ではそういうようなものをぜひ対応してもらいたいという声も多かったんですけれども、新設の豊田小学校に限らず、市内の小中義務教育学校で、その学校周辺のところで、起きそうな場所については、そのような対応をしっかりしていきたいと考えております。

#### ○古川建設水道部長

それでは 3 つ目の県道 33 号線の雑草についてでございますが、ここは県道ですので市から県の方にお話をするところだと思います。ここに限らず、雑草に関しては県道市道限らずあまり除草してなくて、見通しが悪いというようなところも多々ございますので、今後予算の関係もあるのですが、なるべく、危険のないようにしていきたいと思っております。個人的な見解ですが、国道 50 号にも言えることで、最近非常に雑草が、伸びすぎているなと思っておりますので、その辺も含めて、話をしていきたいと考えております。以上でございます。

#### ○小島副支部長

ありがとうございました。まだ時間がありますので、次、意見がある方なにか、願います。

#### ○鈴木房合自治会長

房合自治会の鈴木と申します。よろしく願います。私ども房合自治会は④に関わってくる内容ですが、狭い道路が多くその周りに民家が密集しておりまして、住民の方、特に高齢者の方々から火災に対する不安の声が多く上げられております。市としてのご対応につきま

して、どのような対応ができるのかということで、現在豊田出張所の江藤所長様はじめ職員の皆様にお力添えいただいているところでございますが、火災だけではなくて、今後想定される自然災害とか、そういったものからいかにして身を守るかということ、近年、クローズアップされてきておりますけれども、災害に対する備え、防災を市に頼るだけではなくて、小山市や警察、消防、と連携して、自治会町内会とかもそうなんですけれども加わった住民参加の防災活動として、時間はかかると思うのですけども、地域防災といった組織作りが必要なのではないかと考えましたがいかがでしょうか。

#### ○小島副支部長

ありがとうございました。猪瀬消防長お願いいたします。

#### ○猪瀬消防長

消防長の猪瀬でございます。よろしく申し上げます。まず 2 点目の火災についてお答え申し上げます。消防本部管内においてはですね、道路境界の地域がいわゆる 2 トン以上の水を積んでいる、消防自動車、これは一番大型になりますけれども、進入できない場所が多々あります。まず、消防本部に通信指令課、いわゆる 119 番を受け付けるところがあります。そこに、地図がありますけれども、各分署で調査した、狭隘地域を指令台の地図に表示します。出勤時に、災害現場、火災も含めて災害現場が緊急車両進入困難地域と判別できます。それとともに、消防自動車、救急車のセーブエムといまして車についているナビと同じです。それが載ってまして、そこにも狭隘地域だということが表示ができます。そのときの消防戦術でございますけれども、まず一回り小さい、いわゆる900 リッターの水を積載して、それがポンプ車といえますけれども、一回り小さいやつを先行させる場合もございます。それも進入できない場合は、10 本ホースが積載されているホースカーというのがありますけれども、それをホースを延長します、消防隊が。それでも進入できない場合については、ホースバック消防隊が、ホースバックという、ホースが入ってるやつを、延長して火災現場に向かいます。それと同時に、消防の場合は、ホース延長が可能であれば、道路または路地以外の場所、塀の上とか、または畑、または庭、他人の庭でも、あらゆる措置をして、ホースをひいて我々の消防隊の考え方は、人が入れれば、消防はホースは引けると言ったことで、消火にあたります。この房合地区でございますけれども、車両進入困難場所、これが比較的短いです。この場合は、豊田分署の方で、まずは先ほど言った2トンの水槽車を、豊田出張所の南の東西の通りか、または青島農機具店の方から進入して南の通りに部署していち早く、ホースを引いて消火するのが一番早いのでそういった状況で、消火活動にあたります。以上よろしく申し上げます。

#### ○小島副支部長

ありがとうございました。何かほかに。

#### ○町田危機管理監

危機管理監の町田です。災害時のことに関することとお話させていただければと思います。現在、先ほど、お話があったところで地域住民の方の災害の協力ということで、自主防災会というのを、地域ごとに作っていただいております。現在小山市では 56 団体が作られておりまして、世帯数でいきますと 62%ぐらいをカバーしております。今回お集まりをいただいている穂積地区は、穂積地区ということで、自主防災会を作っていたり、自治会単位ではな

くてもっと大きい地域単位のような形で作っていただいている地区もございます。そういった自主防災の方で隣近所助け合うというような、あとは一緒に避難をしていただくとか避難計画を立てていくというところで、自主防災の組織作りというところで、自治会単位でもまた共同でやりましょうっていうところで、危機管理課が窓口になってますのでこちらの方に御相談いただければいつでもご相談させて、育成はしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### ○小島副支部長

ありがとうございました。次の質問ありましたらお願いしたいんですが。

#### ○篠原シティプロモーション課長

よろしければ、新型コロナの取り組みについて資料を1枚ご用意していただきましたので、これを簡単に保健福祉部長の方からご説明させていただきます。

#### 小林保健福祉部長

小林でございます。貴重なお時間をいただければと思います。お配りしてあります、新型コロナウイルスの取り組みについてということで、ワクチン接種に関しましては、1・2回目の接種につきましては接種率が87%ぐらいまでできて、希望する方への接種はおおむね完了したと考えております。ワクチン接種が進むにつれてコロナの感染者の方も、第5波につきましては、急激に減少したところなんですけどここにきて、オミクロン株の話題が出てきているところですけども、今後、流行が懸念されているということで、ワクチンの方も1・2回接種をした方でも、時間の経過とともに徐々に抗体率が下がってくるということになりますので、3回目の接種を行うことで感染防止、あるいは重症化予防の効果があるというふうに厚生労働省の方でも発表してるところでございます。小山市では、国の方針に従いまして、3回目のワクチン接種につきましては、現在の方針ですと18才以上の方で2回目接種完了から原則、当初8ヶ月経過後に接種を行うということで国からの方針が出まして、準備を進めてきたところですが、その後12月6日には8ヶ月を待たずに、できるだけ前倒しとのお話が首相の方からございまして、12月17日時点の情報では、国から医療従事者とか、高齢者施設の入所者、それから施設の職員につきましては、6ヶ月経過後に接種をその他の高齢者は7ヶ月経過後に3回目の接種を行うと方針が示されたところでございます。うちの方としてはそれに出来るだけ前倒しになった場合でも接種いただけるように、2回目接種完了時から6ヶ月経過後を目安に接種券を発送する準備を今進めているところです。令和3年の3・4・5月に2回目の接種を完了した方につきましては、11月19日に発送させていただいております。その後、令和3年6月に接種が2回目の接種が完了した方には12月の下旬にまもなく発送予定ということで、2回目完了した方から順番に接種券発送を進めているところです。また接種場所につきましては、個別接種と集団接種で行うんですが、1・2回するときには最初に、個別接種を行う、医療機関の方の一覧を最初からお示しができませんで、病院の方に殺到してしまうということも懸念もありまして医師会の方と相談して、そちらの方は最初からお示しはしなかったんですが、今回につきましては、接種券と合わせまして、接種可能な医療機関の一覧の方も同封してお知らせをしております。またホームページにも掲載いたしますので、個別接種を希望する方は個別接種で、集団接種につきましては、そこに記載のありますような接種会場をまず1月は

組んでおりまして、その後 2 月以降についても接種を行うということで日程を組んでおりますので、市のホームページをご覧いただいたり、あるいは市のコールセンターがあり、お電話をいただいたりということで日程の方はご確認いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。国の方針が結構変わることがあるものですから随時変更があった場合には、またホームページ等でお知らせをしてみたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### ○小島副支部長

ありがとうございました。貴重なご意見ありがとうございます。これで②の安全で暮らしやすいまちづくりについては、終了させていただきますので、よろしくお願いいたします。

#### ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。ここで休憩と換気をさせていただきたく 10 分間の休憩をとらせていただきます。14 時 53分から再開いたしますので、10分間休憩をとり再開いたしますので、よろしくお願いいたします。

#### ○篠原シティプロモーション課長

皆様よろしいでしょうか、再開させていただきます。続きまして、③河川周辺地域の活性化につきまして高橋支部長に進行を、お願いいたします。

#### ○高橋副支部長

最後の番となりますけれども、進行を務めさせていただきます。副支部長の高橋です。どうぞよろしくお願いいたします。限られた時間内ですので、多くの意見により有意義な意見交換となりますよう、進行にご協力をお願いいたします。まず 3 番目、河川地域の活性化について。巴波川河川敷浚渫後の残土処理・巴波川右岸堤防上の整備について、本事業に関しましては、栃木県事業となりますが、建設水道部長からご説明をお願いいたします。

#### ○古川建設水道部長

それでは建設水道部でございます。よろしくお願いいたします。河川周辺地域巴波川地域の活性化についてということなんですけれども、私の方から、治水の関係から一つ説明させていただきます。平成 27 年の関東東北豪雨それと令和元年の東日本台風、この集中豪雨によりまして、小山のみならず、栃木市内の中心地において大規模な浸水被害がございました。これを受けまして、栃木県では国道 50 号から上流について、栃木市河合町の平成橋から上流側を、地下の捷水路、地下トンネルなんですけれども、捷水路といいます。その下流については河道掘削等によりまして、河川の断面を広げるというような整備をしてきて、流下能力の向上を図っているということでございます。50 号線については巴波川の河川整備計画、河川整備計画による整備というのは全部終わってるということでございました。小山市内の工事でございますが、平成 29 年度に蛸橋から本郷橋の下流側までの区間において堆積土除去工事の実施しております。平成 30 年度には県道の南小林・松原線の新蛸橋から県道岩舟・小山線の生駒橋の区間において水の流れを円滑にするための河床整正工事を行いまして、令和 2 年度にも国道 50号の新巴波川橋から蛸橋の区間で河床整正工事を行ってございます。今年度につきましては皆さんご存知と思いますが、新蛸橋の上流の右岸において約 60メートルでございますけれども、堤防をコンクリートブロック等で覆いまして、堤防の強化を図るという工事



を実施しているところでございます。またこの区域の右岸堤防の舗装の整備につきましては、地域の皆様がウオーキングしたりっていうそういう場に、整備が望まれると思うんですが、それに加えて、増水時の越水によりまして、堤体の洗掘を防ぐという効果もございますので、県の方に今現在、左岸側が舗装されておりますが、右岸側についても、現場の舗装を実施してもらえるように要望をしていきたいと考えております。私の方からその地域の活性化という観点、そこから少しずれてしまうかもしれませんが、巴波川の治水に関しましての説明でございます。以上です。よろしくお願いいたします。

**○高橋副支部長**

ありがとうございました。それでは早速意見交換をさせていただきます。なお、適宜、浅野市長からご意見をいただき、市側から補足説明やご意見をいただきます。本テーマは巴波川堤防上における、地域住民が利活用しやすくなるような、道路舗装や周辺地域の公園・樹林地の整備防災を考慮した暮らしやすい環境づくり等、安全を含めた地域活性化に繋がる様々な用途を検討し、巴波川周辺地域の活性化を実現する方法について意見を交換してまいります。意見を希望される方は挙手をお願いいたします。

**○神山下河原田自治会長**

下河原田自治会の神山芳則と申します。よろしくお願いいたします。避難関係なんですけども、中地区にある巴波川を中心に、東側には思川が流れ、水と緑豊かな田園環境が広がっています。一方で、近年の異常気象に伴う河川の氾濫についての水害が懸念もあり、実際に台風 19 号では、中地区では被害が出ています。高齢者が多く住む地域なので、県南市場のように近場で安全に避難できる、避難所を指定いただくと、高齢者を含め、安全安心に暮らすことができ、これからの中地区においては、美田地区の地域活性化に繋がるのではないかと考えております。以上です。

**○高橋副支部長**

それでは町田危機管理監をお願いします。

**○町田危機管理監**

こちら全世帯に 2018 年に配りました、浸水の想定区域を示している、防災マップでございます。建設水道部で、見直しをしていただいて平成 28 年に全世帯に配付しております。この中で、ほぼ中地区とか美田地区の中で白くなっているのは美田中ですかね。それ以外は色がついた地域になっているので、先ほど言われた県南市場も、色がついて浸水の想定区域内に入ってしまったっております。豊田地区は思川の駅周辺であれば、駅の南側ですかね。白い色のついていない地区もありますので、そういった色のついていない地区に避難をしていただく、中地区・穂積地区はほぼ色がついているところなので、思川を渡ったようなところに避難をしていただければというふうに考えております。早い段階で避難を開始していただければ。昨年全世帯に配布しているところなんですけど、高齢者等避難、これ、なるべく早く出したいと思っております。それと、避難勧告はなくなりまして、避難指示一本となりましたので、避難指示が出たときは、速やかにそのエリアから出ていただく。当然安全な場所、白いエリアに出ていただければと思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

**○高橋副支部長**

ありがとうございました。浅野市長。

#### ○浅野市長

熱海市の土砂災害についても、避難指示が遅れたんじゃないかということが指摘されてますけれども、避難指示を出すべき時が、どういうときに出さなきゃいけないと、決まってるんですけれども、例えば雨とかの警報についても、警報は出てるけれども、そろそろ止みそうじゃないかとか、そういう判断を加えることによって、かえって騒がせてはまずいと、避難指示を出さないケースがやっぱり全国でもあるんですね。それで首長を対象としたいろんな防災セミナーとか研修会とかあって言われることは、とにかくその事前に判断基準とされているものに該当して、避難指示を出さなきゃいけないときは躊躇せずに出すようにして欲しいと。むだな避難があってもいいじゃないかと。避難しなければいけないときに、避難できないということで。被害が発生するっていうことは、絶対あってはいけないだろうということで、積極的に要件を満たせば、指示を出して、出すようにしてもらいたいということを様々な研修とか、言われております。今後、そういう事態にならない方がいいんですけども、そういうような事態になったときには、当然、災害対策本部を設置した上での判断になりますけれども、住民の方にご迷惑をかけることがないような形で対応していきたいと思っております。その前提としていろんな整備が、必要なわけですが、必ずしも市だけで出来ないものの方が多いという事で県とか国とかに要望しなきゃいけないことについては、引き続き、強く要望していきたいと考えております。

#### ○神山下河原田自治会長

下河原田は避難場所が小山第三小なんです。ということは避難指示が出たときに、思川とかが氾濫した場合ですね。そういうときにどうなのかなってのがあって、今、危機管理さんの方から色のついてないところへ避難してくれと言われたんですけども。とりあえずその防災ガイドブックには、多分、小山第三小ってあって、周りの人に聞けばどこにあるかもわからない人がいるんですよ。だからその辺でって、お願いしたんですけども。以上です。

#### ○町田危機管理監

危機管理課です。防災ガイドブック、この中に自治会名が入っていて、避難する場所が書いてあるという、これはあくまでも一つの目安なので必ずここに行ってくださいっていうことはありません。災害に備えて、台風であれば、早め早めの避難所の開設というのは、行政の側も考えております。空いている避難場所にまず行っていただく。高齢者等避難が出て高齢者要支援者とか、そういった人たちをどこへ連れてくるっていうことは、それが空いたところに目指していかなければと、多分皆さんの地区でいうと美田中は早い段階から開けようかなと思っています。ただ、美田中に避難してこられる方は皆さん美田中の学区内の方々に、皆さんそこを目指してくるのですが、一つの避難所に皆さん全員が当然入れるわけではないので、より安全な場所というところで、さっき言った色の塗ってない白い場所という、思川を渡らなきゃいけないんで、またそこを渡るためには、ある程度、道路も避難経路も安全があるうちに避難してほしいので、早め早めの避難をお願いしたいと考えております。そのために私どもの方も情報出していきますので、例えば防災無線とか、おーラジとか、小山テレビTwitterとか、安全安心メール、それと小山市のホームページにポータルサイト作りしましたので、こちらは防災専用

のサイトなので、そちらも参考にしながら、情報を皆さんもとっていただいて、どこの避難所が開いているのかとか、こういった災害が起きそうなのかとか、市民の皆さん方も情報の取得をお願いしたいと思います。以上よろしく願いいたします。

○高橋副支部長

ありがとうございました。その他ご意見ございますでしょうか。

○浮田上泉自治会長

上泉自治会の浮田貴史と申します。よろしく願いいたします。私もこの間の洪水の時、美田中を開けていただいて、家族ともお世話になりました。ありがとうございます。皆さん、市役所の方にお世話になりました。ありがとうございます。物資もいただいて。先ほど、下河原田自治会の神山さんからご意見があった通り、河川周辺の地域にとって、水害の問題は暮らしと密接であると考えております。親からは、皆様聞いてると思うんですけど、あの近辺は昔から洪水が多かったところです。私どもも少し不安は昔からあったんですけど、ここ数年はなんかちょっとおかしいところがあると思いますけどね。水害が起きた際に対応するかということも重要です。治水対策を充実させること、これは予算とっていただいて河川の底を浚っていただいたこと、感謝いたします。今後の防災を考慮した、まちづくりを目指していく上で必要ではないかと思ひますし、これからの小山市の地域活性化の取り組みにおける一つの参考材料にしていただけると幸いです。よろしく願いいたします。

○町田危機管理監

危機管理課です。貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきたいと思ひます。よろしく願いいたします。

○高橋副支部長

ありがとうございました。浅野市長。

○浅野市長

河川整備の難しいのは、結局下流から整備をしていくということで、下流が流せないような水を、上流が流してしまう訳にはいかないということで、どうしても最近のような、かつては本当に何十年に一度というような雨が、豪雨が、しょっちゅうあるようになってきたときに、どうしても今までの河川整備のやり方で追いついていかない部分が出てくると。そこをどうしていくのか今、国交省が流域治水とか、言ってますね、河川整備だけではなくて、田んぼダムも含めて、流域全体でそういう水害が発生しないようなことをやっていく必要があるということになっています。ですから本当に流域全体で治水を考えていくという方針が打ち出されて、本当に国・自治体を挙げてそういう方向に向いているところなんです、それで完全に水害の発生を防げるかっていったらやはりそれはもう 100%防げるわけではなく、今年 1 年見ても、各地で水害が発生しております。ですから、小山の場合は、平成 27 年令和元年と、水害が発生して、去年今年はなかったわけですけども、それはこれから数年は絶対大丈夫なのかっていうようなことはもう決して言えないような、時代に差しかかっています。やはり、水害はもう発生する可能性があるんだという前提で、発生したときに避難をどうするんだと、何を守るっていう形での優先順位をどうするんだということを日ごろから行政も市民も頭の中において、いつそういう災害が発生しても、大丈夫なようにしていく必要があるんだろうと思ひます。市とし

ては広報関係の中で、先ほど示された防災ガイドブックとか配付しておりますが、当然それだけで十分なわけではなくて、様々な機会に、防災意識を高めていただくように呼びかけなければいけないですし、本当に様々なところで関係者が実際起きた時にどうするんだということで、シミュレーションした形でいろんな訓練的なものを、やってく必要があるんだろうと思います。自主防災会組織もかなり小山市の場合は数が多くなってきているんですけども。それで全部十分ということではありませんし、また、コロナのような状況の中ですと本当に難しいんですね。例えば避難所を作ったときに設置したときに、そこに新規感染者があらわれたときどうするんだと。あるいは濃厚接触者が現れたときどうするんだということについても、県の方は感染された方とかその接触者については、県の施設の方に別に収容するように手当てするとなっておりますがタイムラグが発生すると、そのタイムラグが発生する間は、自治体で賄ってくれと言われていて、そうするとそういう感染した方とか濃厚接触者の人のための特別な避難できる場所を確保しなければいけないことがあるんですが、秋ぐらいまでは誰が感染してるのか、誰が濃厚接触者なのか情報出してくれて言っても、出せるシステムになってなかった。県が全部把握していて、市町村にはそれがおいてこないということもあって、本当に災害が発生するときどうするんだと、いったときに、直前には出すと言ったんですが、それも本当に口頭の説明だけで。やっと県と自治体の間で覚書を交わせるようになったのは災害シーズンが終わった頃ですね。ですから今後情報もいつの段階で出してくれるかということで、国と県と自治体の間で決まったんですけども。本当にコロナ禍の中で、どう対応していくのかということについては方針がなかなか定まらない状況にあったのが事実でございます。ですから本当にそういう意味で非常にこのあとコロナがどう収まっていくのかわかりませんが、単に災害が頻発するというだけではなく、このような形のパンデミックがあったときに、どう対応するのというようなことで本当に以前に比べると、災害対応がすごく難しくなっておりますので、行政内部でも検討を重ねつつ、その検討した結果をできるだけ市民の方にわかりやすくお伝えして、市民そして防災に携わっている、例えば自主防災会とか、自治会の方とか、行政、当然消防警察、そういうところも本当にうまく連携して、被害を最小限に抑えるようなそういう仕組みづくりをやっていかなければいけないと、今年の1年痛感しましたし、本当にこれから実際にそういう取り組みを強化していきたいと考えておりますので、ぜひ自治会の皆様にはそこら辺をご理解いただきながら、住民の方々に周知していくという、本当に難しい部分を、行政・市と一緒に取り組んでいただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○高橋副支部長

ありがとうございました。そのほかご意見ある方はいらっしゃいますでしょうか。

#### ○宇賀大川島自治会長

大川島自治会の宇賀孝夫と申します、よろしく申し上げます。先ほど巴波川の右岸の要望していきますという意見をいただきまして本当にありがとうございます。私はそのことについて質問したかったですけども、プラスアルファ少しつけ加えさせていただきます。私達の中地区の中心を流れている巴波川は左岸堤防上に桜の木が植えられており、道も整備されていることから、多くの地域の方の散歩やジョギングに使われております。一方で巴波川の右岸側がほとんど整備されておらず、夏場におきましては、身の丈以上の草が生え放題で、散歩も何にも

できない状況であります。そこで、先ほど舗装していくってということでのご意見いただいて本当にありがとうございます。プラスアルファ、左岸堤防のように、桜の木とは言いませんけども、四季を通じて何か花木を植えて、本当に皆さんがいい景色だなと思えるような、河川敷にしていただければと思います。よろしく願いいたします。以上でございます。

○高橋副支部長

ありがとうございます。すいません。建設水道部長。

○古川建設水道部長

それではただいまのご質問でございますが、確かに左岸には、現在の堤防に腹付けっていう形をして桜が植わってる。右岸については、桜が植わってないということなもんですから、桜を植えるためには少し調べてみないとわかりませんが、用地買収代をして右岸に腹付けすることが必要になるかなと感じております。それは、予算的にもだいぶ必要になってしまいますんでその辺は少し検討させていただきたいと思います。いずれにしても、個人的な話で申し訳ないんですけど、巴波川小山市で唯一、南から北に流れている。非常に素晴らしいことだと思っておりますのでぜひ地域活性化のために、何かできればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。ありがとうございます。

○浅野市長

今の古川部長の説明でも、お分かりかと思うんですけども、堤防の場合は治水機能が第一なので、それを確保しつつ、花木を植えるとなるとさらに土を載せて、そうしないと植えられない。つまり、木が大きくなって、根っこが堤防を逆に弱めるようなことになったらまずいので根をはる部分を厚くしないと、そういうものを植えられないんですね、ですからやはり費用がかかってくる。用地買収をしなくてもですね、堤防に土を載せて行くだけでもかかるということで以前もお話したことがあるんですが、思川桜 1,000 本ぐらい増やそうということで、10 年ぐらいの間にどうなんだろうということで試算すると、3 億円ぐらいかかる、毎年 1 年間 3000 万円ぐらいずつその腹付けに整備しないとそこに植えられない。だからオーナーの方が 3 万円出して植えるのはそれ以外の費用がかかっているわけなんです。ですからそれだけ花木をその堤防の上に植えていくのが非常にお金がかかることで、いったん植えたものについてはまた毎年毎年管理をしていかなきゃいけないということもあって 1 本 1 万円ぐらいはかかってくるんですかね。ですからそういう意味で、今まで思川桜 2,000 本以上ということになって、皆さんから本当に小山の思川桜きれいだねと、市民からも愛されてるんですけども、今までは全て税金で、植える 3 万円は別ですが、それ以外の腹付とか管理とか全部税金でやってきたんですが、できることならば本当にこれから思川桜をふやしていこうとなったときにはそれ以外のいろんな形での協賛をですね、市民とか企業から募ってやっていけたらなと考えてまして。今、クラウドファンディングとかいろいろありますし、ふるさと納税とかありますので、そのためのお金集めというようなことも考えながら、本当に少しでも景観が良くなるようなことにも取り組んでいけたらなと思っております。

○高橋副支部長

その他、意見はございますでしょうか。

○坂本川入自治会長

川入自治会長坂本です。巴波川とは少し違うんですけど、杣井木川は、小山市としての整備計画というのは入ってくるのか聞きたいんですけど、お願いします。

#### ○古川建設水道部長

それでは私の方から申し上げます。杣井木川につきましては、これも思川、巴波川、永野川と同様に 1 級河川ということで、栃木県の管理になっております。栃木県によって、現在、杣井木川の排水機場の増強、それと永野川合流地点での調節池のということで動いておまして、杣井木川を、小山市が何かするかということになりますと、今計画はございません。栃木県管理なものですから。杣井木川をいじらないで、他の治水対策を小山市は考える、以上です。具体的には、この押切地区、中里地区、上泉地区、この 3 地区について、地元の皆様にいろいろ考えていただいて、集団移転とか輪中堤とか、そういうものを今、検討しているところでございます。以上です。

#### ○坂本川入自治会長

すいません。いいですか。以前 2 回、川入地区が台風でかなりの戸数が床下床上あったんですね。その要因として、50 号の南側の県道 36 号線が堤防になった感じで水が流れなくて、あふれた状態です。その北側にある旧の街道なんですけど、大平町に抜ける街道なんですけど、そこに堰があってその堰が下がってそこから洪水が溢れちゃうんですね。それがいっぱいあって。とりあえず、小山土地改良区に要望出したんですけど、全然埒が明かなくて、そのまま何か台風が来るといつも、恐怖を感じてる状態ですね。できれば本当にその県の方に至急にでも要望を出してもらえれば助かると思います。

#### ○古川建設水道部長

ただいまのお話でございますが、杣井木川は 1 級河川と言っておりますが、上流は農業用の水路ということで使われております。ですから、台風時とか大雨のときは、この堰などの管理について、適正に管理していただけるよう市役所の農政サイドから改良区の方へはお話をしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

#### ○篠原シティプロモーション課長

市長、まとめてご意見を。

#### ○浅野市長

本当にあつという間に 2 時間経ってしまいました。今日皆さんと率直に意見交換ができたので、たいへん良かったと思います。今までどちらかという憩談会は、あらかじめ要望が上がってきたものに対して、あらかじめ用意したご回答を読み上げる形で行われていたんだろうと思うんですけど。今日みたいに、次から次へ、質問していただいて、そこで答えられる範囲で答えていくというようなことが、やはり話を聞いていて疑問に思ったようなことを、そのまま持ち帰っちゃうんじゃなくて、その場を出して解消できるものがそこで解消して、さらに次の段階に行けるという意味では、こういうあまり全部事前に用意された形でもなく本当に率直な意見交換ができるというのは、すごくこれからの地域行政と各地域とのコミュニケーションを高めていく上でも、非常にいいことなんだということだったと思っております。今日本当にいろいろご意見いただいて、今までこちらが気がついていなかったこともたくさん出てまいりましたので、各部署持ち帰って対応できるものは、対応していきたいと思っておりますし、いろいろな、

要望を決まったときに決まったように出すということではなく、随時本当に直接担当課でもいいですし、支部を通してでもいいですし、出していただいて、こちら側も対応できるときに対応していくことで、そうすることによって、いろんな対応力を高めて行く。先ほども言いましたように防災とかの観点からしても、以前に比べられない比べられない程いろんな難しい問題が出てきてますので、行政と自治会そして住民がいればどれだけ連携できるかで、変わってくるんだらうと思います。そういう意味で本当に連携を深めていくというのは、随時意見のキャッチボールをしない限り、できませんので、そんなふうにし全体がなっていけばいいなと思うわけですが、先ほども言いましたように自治連の各支部に今こういう形でフォーラムをお願いしたいということと呼びかけているところですが、今日美田支部で、こういうような形でできたことをまた他の支部にもお伝えして市全体で、地域版の市民フォーラムも回を重ねていきたいということで、これから進めて参りたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

#### ○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。最後に浅野市長からまとめを含めましてご挨拶をさせていただきました。ありがとうございました。これをもちまして本日の令和 3 年度美田支部市民フォーラムは終了いたします。ご協力ありがとうございました。お手元に、アンケートがございますので、今回初めての開催でしたので、ぜひいろいろなご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で市民フォーラムを閉会いたします。ありがとうございました。